

やさしい病害虫講座 33 サツマイモの病害虫-2

木村 裕

前回の主人公のイモキバガさんは体が小さくて少食であったため、葉は穴だらけになって見苦しくなるとはいえ、実被害はそれほどではなかった。今回は横綱級のイモムシさんを紹介します。

【エビガラスズメ】

大きく成長すると、私たちの指くらいにはなる大きなイモムシさんです。常時現れる害虫ではありません。ときどき突然に出現して葉をバリバリ食べ、茎だけにします。

体は大きく頑健で、側面に目玉模様をいっぱいつけているが、本当の目玉は小さな頭にちょこんとついていて探さないと見つかりません。それとお尻に尖った突起を備えているのが特徴です。

衣装もちで、黄色、緑色、青白色、褐色、黒褐色などさまざまな色の衣装で着飾り、その側面には斜めのしまの模様もつけています。



見つけ次第捕まえましょう。手で触るのには抵抗があるかもしれませんが、かぶれなどの毒成分はないので心配はいりません。大きなイモムシさんは力持ちで体を振り動かして逃げようとしてますが恐れずに。



大きくなった幼虫は土の中で、褐色の蛹になる。

【ハリガネムシ】

名前の通り、イモに穴を穿つのは針金のように細くて堅い頑丈な虫で、コメツキムシさんのお子さまです。成虫のコメツキムシさんは黒っぽい細長い甲虫で、触ると手足を縮めて死んだ振りをし、裏返しに放置しておく、ペコンと跳ね上がって元に戻ってこそこそと逃げ去ります。



子供さんは、イモの表面に穴をうがち、頭を突っ込んでかじります。穴は直径1ミリ前後で針金を突き刺したようで、イモの品質は低下しますが実害はたいしたことはありません。しかし、虫がかじった傷口が黒斑病という病気の侵入の足掛かりになるのが問題です。

【黒斑病】

収穫後の貯蔵しているイモを腐らせる厄介な病気です。イモの収穫時に生じた傷から菌が侵入して内部で広がりイモ全体を腐らせます。

イモの掘り取り時にはイモの表面を傷つけないことです。コガネムシやハリガネムシがかじった部位も侵入口となりますので、傷ついたイモは早く食べることです。収穫時にイモの表面が黒くなっておればすでに感染しているのは確実です。

